


ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.37 2014年6月1日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。中目黒に移り住んで以来、ずっとお世話になってきた床屋さんとパン屋さんが相次いで閉店。寂しい限りです。近所の書店、惣菜屋、金物屋さんもここ数年で姿を消しました。時代の変化や様々なご事情ゆえの苦渋の決断を思う時、これからの歩みに主の祝福あれ、と願わずにはられません。わが神学校もやがて63年。初夏の陽気となった庭で、今年もバラが代わる代わる大輪を咲かせましたよ。

「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことは永遠に立つ。」(イザヤ40:9)

校長 関野祐二

● 静けさの中で

卒業式で11名を送り出した後、皆さまのお祈りに支えられて、聴講からの編入を含め19名の正規生・聴講生を迎えた新年度がスタートしました。例年のことながら、人が入れ替われば雰囲気も変わります。そう、授業中も休み時間も、なんだか妙に静かなのです。在校生の平均年齢が少し上がったせい、はたまた静かな思索型の在校生が増えたか、ただ疲れているだけなのか。明るく元気な聖契色に染まるのは時間の問題ですから、きっとそのうちにいいバランス点で落ち着くでしょう。わが新約通論も悪夢の(?)福音書内容梗概が過ぎ、パウロ書簡に入りました。

セミナー「霊性と黙想」が5月12日より月曜夜各週で始まりました。早々に定員を超える申し込みだった今回も、お馴染みY先生の指導で静かに交わりが深まっている様子。時間と教室が重なるキリスト教教育は、1階食堂へ移動し思いきりはじけた実践。お向かいの教理史はセミナーに配慮しM先生に歌唱禁止令。代わりに火曜午前の教会史で存分に吠えていただいております。

● 水も漏らさぬ防水工事終わる

図書室の南西側天井コーナーに雨漏りが始まったのはいつのことでしょう。虫歯と同じで、放っておいても治らないことは重々承知していても、大ごとになるのでつい見て見ぬふりをし数年(!?)。秋に全国の神学校代表者が協議会総会で本校を訪れることとなり、さすがに塗料の剥げ落ちた図書室ではマズイと腰を上げました(在校生の皆さんすみません)。すぐには建て替え不可能な現状ゆえ、こまめなメンテナンスが命。古い衣服に新しい布切れで継ぎ当ては... などという、みことば誤用の言い訳は許されません。増税前に完了させるゾ、とエンジンがかかり、業者との綿密な打ち合わせを経て2月13日に本館屋上防水工事着工。屋上を占拠していた我が望遠鏡架台は、階段踊り場へ退却と相成りました。併せて前回から10年経過の別館屋上(三階拙宅天井にシミ発生)やチャペル脇のトイレ屋上も(女子用の室内壁が悲惨デスヨネ)。駆け込み工事はどこも同じで、現場掛け持ちの職人さんたちは大忙し。どうにか間に合って3月31日工完、4月1日入学式の午後、引渡しでした。別の建物と見まごうほどに、屋上はどこもかしこもピッカピカ。

ぺんぺん草の生えていた雨どいも、グレーのコーティング済み。来校の際にはぜひスリッパのまま（ヒールはダメよ）屋上へおいでください。一方で、防水層に傷をつけないため、「望遠鏡の尖った三脚は厳禁ですっ！」と宣告されました。くじけてもいられず、早速DIY店で、分厚いゴム板を六枚ゲット。ともあれ、夏の流星群をここに寝転んで観たら、さぞかし快適でしょうね。

● 感動の月食、次の月食

春休み中から宿題を出して、組織神学クラスに疲れが見え始めた4月15日。前回クラス時に、「来週火曜はクラス前に月食があるから、18時に屋上へ」と伝えてはおいたものの、一抹の不安が心をよぎりました。確かに皆既月食。でも、この日の月の出は18時17分で、月食終了が18時33分。つまり欠けた月はたった16分間しか見られないのです。ご存知、中目黒は住宅密集地で、月が出る東方向にも目黒駅周辺の高層ビルが林立。その陰に月が昇ってきたら今回の月食はアウトでしょう。ここで一句。「月食や 月は東に 日は西に」。そう、月食は地球の影に月が侵入する現象ですから、太陽が沈むと同時に月が昇ります。真新しい防水層を傷つけぬようソロリ歩きで集まった面々と美しい日没を堪能後、視線をいざ東の空へ。こちら最初から双眼鏡で、神学生たちは肉眼で、頼むからビルの狭間に出てきて！と月を捜します。18時20分、25分、まだ見つかりません。そのとき、「あった！」の雄叫び。学者肌で尊敬を集める、内モンゴル出身のK兄でした。慌てて指差す方向に双眼鏡を向けたら、高いビルのすぐ右側に、赤くて上が少し欠けた月が挨拶をしているではありませんか。風が冷たかったのですが、それを吹き飛ばす歓声でした。比較宗教クラス組はそそくさと授業へ。こちら教師が屋上に居る限りは始まりませんね。

ところで10月8日、今度は18時14分～21時35分に皆既月食の全経過が見られますよ。

● 今年もカキデンが熱い！

昨年の福井夏期伝道は、数十年ぶりの実施とあって、大盛り上がりと手探りとが交錯し、ともかくにも神学生と教師合わせて4名を派遣して、祝福のうちに終了しました。今年度、予算は取ってあるもののどうしようかと案じていた矢先、昨年の原動力だったSu先生から授業後に打ち合わせを、との嬉しいメール。こうして今年度も熱き夏期伝道の火蓋が切って落とされたのでした（少々大袈裟？）。どこにチームを派遣するか、すぐに思い浮かんだのは、3月に専門科を卒業後、山梨県と東京都郊外のふたつの教会へ赴任した、明るく伝道熱心なYI牧師。翌日電話をしたら、夏期伝道チーム派遣をととても喜んでくれ、教会の皆さん共々、快く受け入れてくださることに。よかった！つい先日、在校生と教師に案内を配付し、ただ今夏期伝道参加者募集中です。わずかひとつのチーム派遣でも、それが神学校全体の祝福と励ましになることは昨年度経験済み。

そうそう、祝福&励ましと言えば、昨年度の派遣教会がちょうどこのレター発行日に開所式を迎え、なんと伝道師のお母さまが初穂として洗礼を受けるとの嬉しいニュースを受け取りました。カキデンがどう作用したかは未知数でも、チームメンバーや派遣元の神学校が喜びを共有できるのは確かな事実。どうか今年もビックリするような出来事（心配事はNG）が起こりますように。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 新規入学の12名を含む在校生66名の、前期学びが支えられるように。
- ・ 8月21日～23日夏期伝道の参加メンバーが決定し、よき準備がなされるように。
- ・ 祈りと支援により本校の運営が支えられ、主にある献身者育成の使命を果たせるように。